

Cuor di Zingaro

Dino Berruti

ジプシーの心

ディーノ・ベルルティ作曲

作者に就いては「我がギター」に述べたので繰り返さない。

ジプシーを題材にした曲は殆ど例外なく緩急の激しい対照で構成されており、この作者向きの題材である。

特にこの曲では小節毎に緩急を配置するかと思えば、華麗なワルツ調では一気に飛ばす部分もあり、自由気儘なジプシーの生活を歌ったものらしいが、判で押したような生活を繰り返している者にとっては、一寸先は闇の感じで、指揮無しではとても纏まりそうにない作品である。

1938年1月(昭和13年)、ミラノのイル・プレット口誌で発表された曲であるが、本邦では未だ上演された記憶が筆者にない。

この作者の最もよく上演されるのはマンドリンオーケストラを伴う独奏曲「ハンガリアの黄昏」で、本曲に匹敵する佳曲は20曲を下らないが、余り探求する人も出ないのは本邦の斯界全般が消極に安住するのに慣れて了った感じが否めない。

追加資料

遺稿

中野二郎編著

「マンドリン ロマンの薫り」より